



■ND C 9 0 9

昭和43年

5 0 2 P

2 2 ・ 5 cm

小学館版

少年少女世界の名作文学／第49巻／日本編5

執筆者紹介
しつびつしゃじょうかい

下村湖人／明治17年、佐賀県に生まれる。本名虎六郎。旧

姓内田。29歳のとき、下村家

へ養子入籍。明治42年東大英

文科卒。主な著書に、論語物

語、次郎物語第一部より第五

部まで。昭和30年同第六部執

筆を前に没。

山本有三／明治20年、栃木県

に生まれる。本名勇造。大正

4年東大独文科卒。昭和16年

芸術院会員。昭和40年文化勲

章受章。主な著者に、生きと

し生けるもの、波、女の一生、

真実一路、路傍の石

■昭和43年6月20日発行

■少年少女世界の名作文学／第49巻／日本編5

■次郎物語(第一部)／路傍の石

■定価／四八〇円

■編者／◎名作選定委員会

■発行者／相賀徹夫

■発行所／株式会社小学館 東京都千代田区神田一ツ橋二ノ一

■電話／東京(263)二一一一

■振替／東京二〇〇番

■印刷・製本／大日本印刷株式会社

■本文用紙／本州製紙株式会社

■表紙クロス／東洋クロス株式会社

＊作者との了解により
検印を取り止めます

造本には、じゅうぶん注意しておりますが、万一落丁・乱丁
などの、不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan

少年
少女 世界の名作文学—49

日本編—5

次郎物語・路傍の石

下村湖人

山本有三



小学館

はじめに……………

この編には、下村湖人作『次郎物語』第一部、山本有三作『路傍の石』の全編を収めました。いずれも作者の自伝的な要素をもつすぐれた文学作品です。

『次郎物語』は第一部から第五部にわたる、作者が二十年余の歳月をかけた大長編ですが、ここでは皆さんが楽しく読める第一部だけをとりあげました。作者は第一部のあとがきで、「もし一生のうちに一冊だけしか本が書けないものだとしたら、私はおそらくその一冊にこの『次郎物語』を選んだであろう」といっています。

第一部は、主人公次郎の幼年時代を生き生きと描いています。長い教育者としての経験を基盤とした作者の人生観、愛情が全編に流れており、読む者の心をうたずにかないてしまう。

昭和十二年に筆をおろされた『路傍の石』は、あとがきにもあるように未完のままに終わった作品ですが、今日に至るまで、多くの読者に親しまれてきた、有名な作品です。主人公吾一少年を中心とした少年少女の生活を描いたはじめの部分から、皆さんをひきつけずにおかないことでしょう。いくたびか映画化され、そのたびに非常に成功をおさめているということに、『路傍の石』が永遠に「感動の文学」であることはつきり示すものといえるのではないのでしょうか。

貧しい家に生まれた吾一が志を立てて、光にむかつて歩もうとする姿は、皆さんの感動を呼ぶことでしよう。



じ ろ う も の 語
次 郎 物 語

じ ろ う の 敵 は お 民 だ っ た 。 そ し て 裏 切 り 者 は 、 お 浜 。 里 親 の お 浜
が 好 き で 、 ど う し て も お 民 の 家 へ 行 く 気 の な っ た 次 郎 は 無
表 情 で 、 汗 く さい ゆ か た を 着 だ し た の だ 。 敵 に 降 参 し た の だ 。

38ページをごらんください。



じろうものつくり
次郎物語

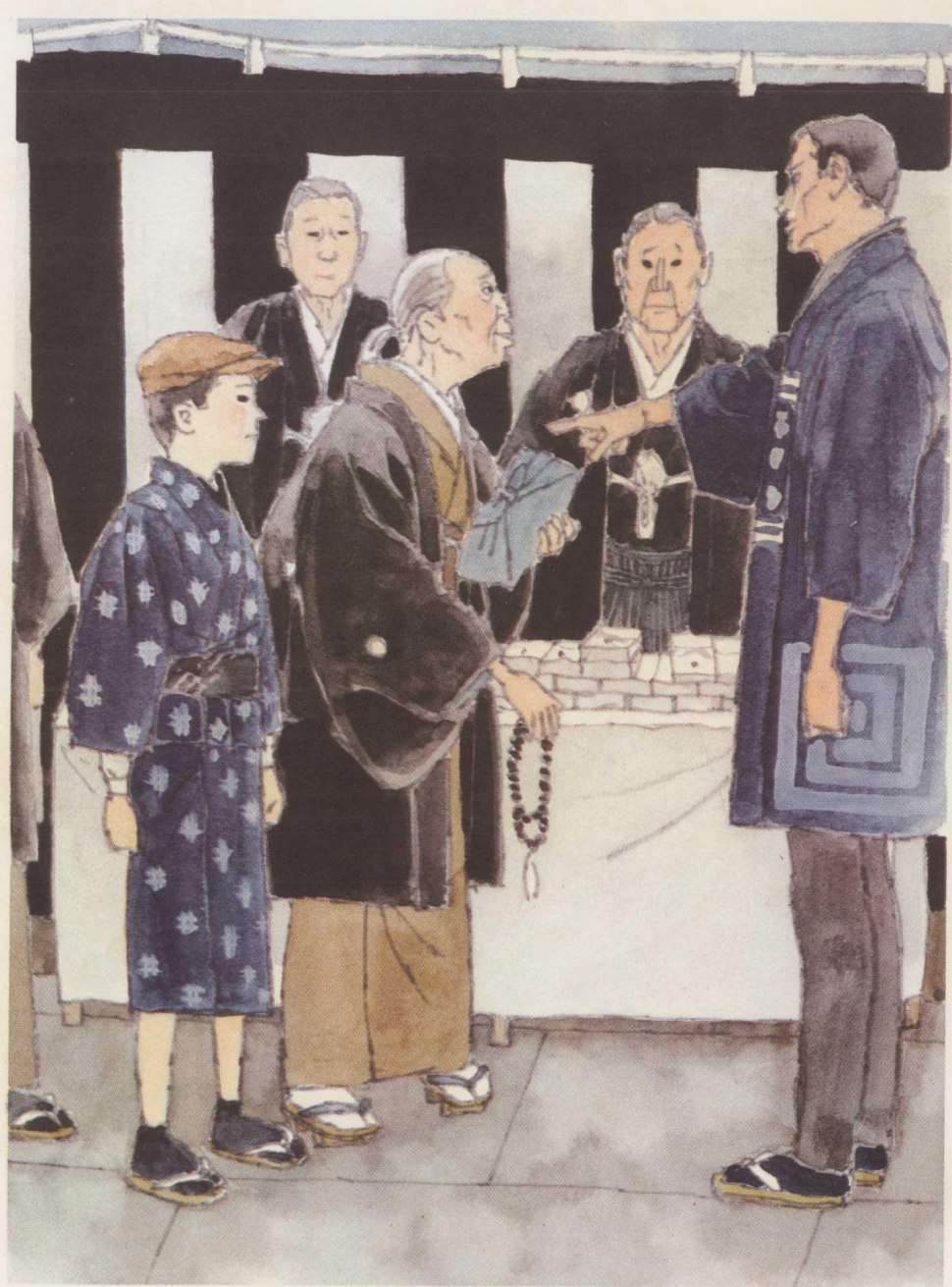
次郎は、由夫をおさえつけて、がむしゃらにそのほっぺたをつかんでいた。だが、かれの頭や背中^{うしろ}は、四、五人^{よにん}の子^こどもたちの棒切れでなぐられていた。悲鳴^{ひめい}をあげたのは由夫^{よしと}だった。

157ページをごらんください。



ろばう いし
路傍の石

ポォーッ！ ポォーッ！ 非常警笛^{ひじょうけいちふ}がたえまなく鳴^なっていたが、吾^{われ}一^{いち}はもうなんにも感^{かん}じなかった。太^{ふと}いまくら木^きがぶるぶるとふるえていた。まくら木^きの上^{うへ}のレールがうなっていた。



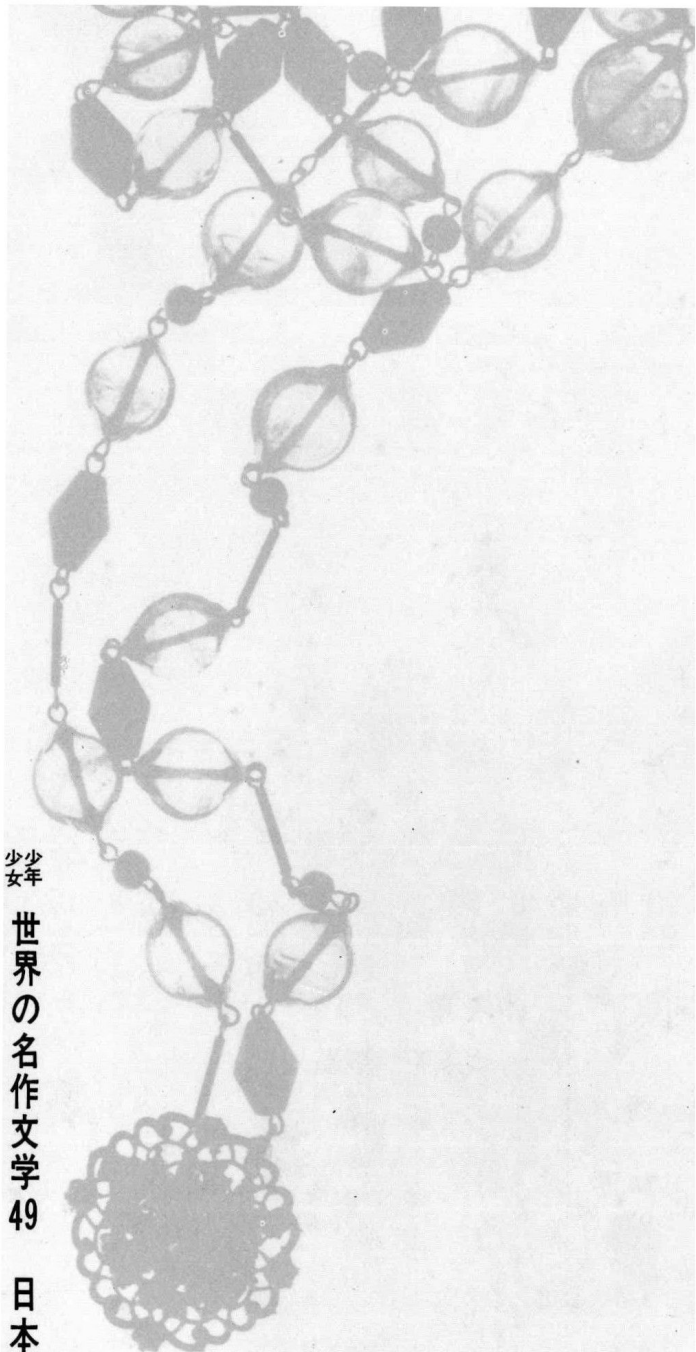
ろぼう いし
路傍の石

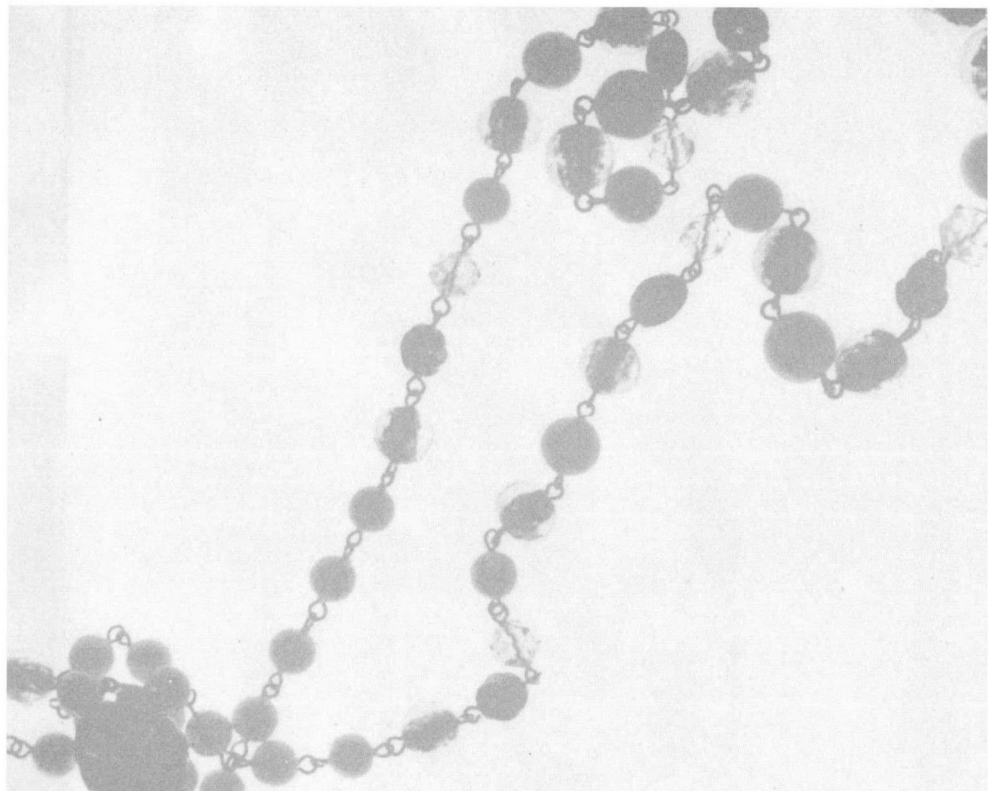
突然、半てんを着た男がおばあさんの前に立った。「おい、なにをうろうろしているんだい。」目の前でやられているおばあさんを見て、吾一は逃げだそうとした。

449 ページをごらんください。

もくじ

少年少女 世界の名作文学 49 日本編 5





はじめに……

2

次郎物語（第一部） 下村湖人……

19

一 おさるさん……

21

二 おたまじゃくし……

26

三 耳たぶ……

30

四 ちようちん……

35

五 寝小便……

44

六 飯びつ……

47

七 卵やき……

51

八 水泳……

63

九 雑のう……

67

一〇 お使い……

72

一一 蠟小屋……

77

一二 押し入れ……

83

一三 窮鼠……

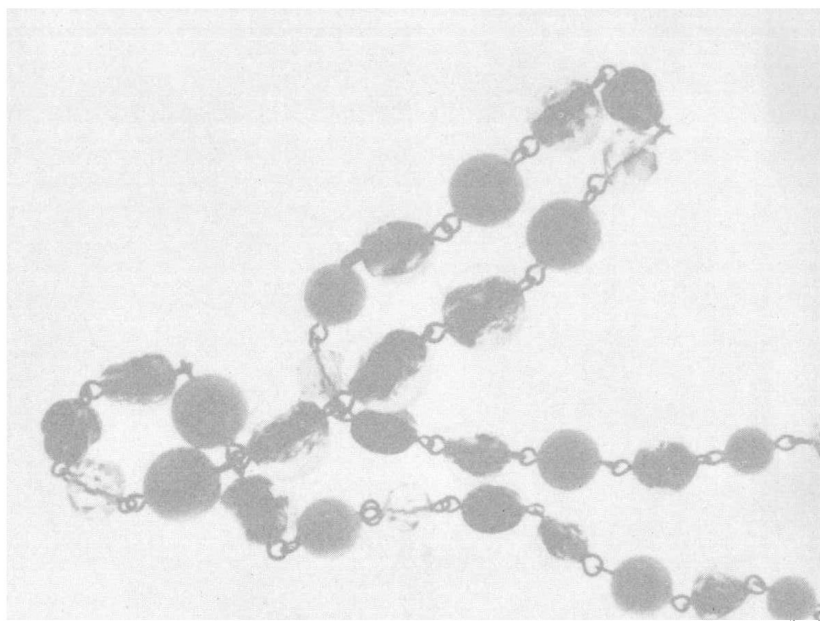
91

一四 ちび……

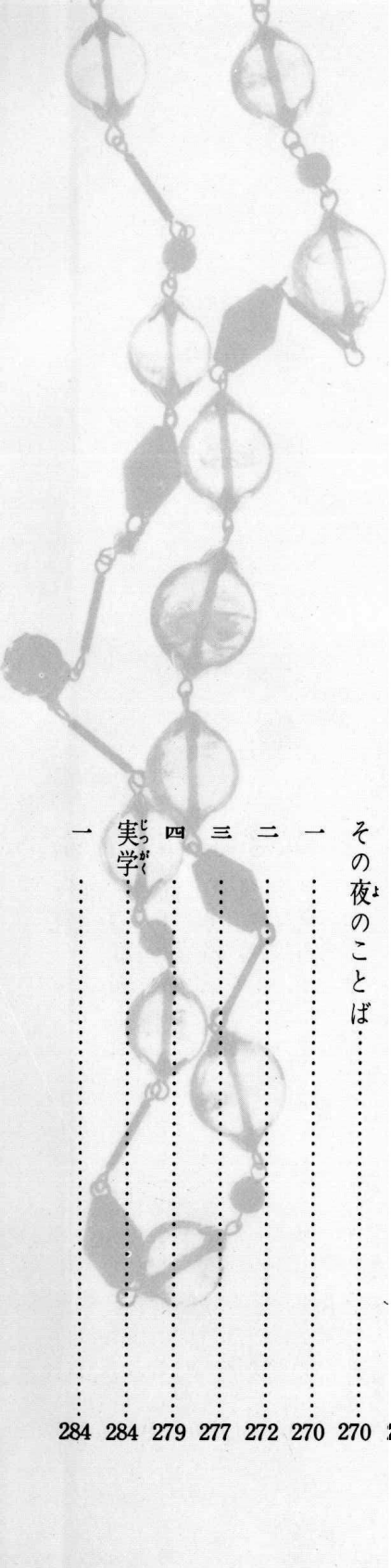
100

一五 地鶏……

105



三	看病	202
三	土蔵の窓	194
三	新生活	187
三	十五夜	180
二九	北極星	172
二八	売り立て	168
二七	長持	164
二六	没落	161
二五	ねえちゃん	158
二四	乱闘	151
二三	いなごの首	148
三	カステラ	142
二	土台石	139
二〇	旧校舎	135
一九	校舎移転	129
一八	菓子折り	123
一七	そろばん	114
一六	土橋	108



一	実学	284
四		279
三		277
二		272
一		270
.....	その夜のことば	270
.....	中学志望	261
.....	くち絵のかわりに	255
.....	路傍の石	253
.....	山本有三	253
.....	あとがき	250
.....	元 母の臨終	245
元	再会	238
モ	母の顔	232
三	やけど	225
三	薬局	215
三	牛肉	209

一	前 まえ かけ	二	一	う う つりかわり	先祖 せんぞ と家 いえ がら	四	三	二	一	吾 ご 一 いち	二	一	赤 あか い糸 いと	二	一	意 い 地 じ	二
.....																	
367	367	362	354	354	339	336	333	329	326	326	318	310	310	300	293	293	288